

「新たな復興計画」の策定の枠組み

実現可能で未来に向けた
「新たな復興計画」(高岡市が策定)
対象：全市+伏木地区

安全

- ・面的な液状化対策
- ・防災 など

くらし

- ・空き地、空き家の活用
- ・地域コミュニティ など

にぎわい

- ・なりわい
- ・観光 など

まちづくり等の専門家や、地域団体代表者等から
成る**復興会議**で検討

復興に向けた
実現可能な
アイデアを
反映

市長との対話集会
(市長が地域住民と開催)

まちづくり懇談会
(専門家が地域住民と開催)

- ・東京科学大学 真野研究室
- ・富山大学 藪谷研究室
- ・地域住民

地域の各種協議会など
(地域住民により開催)

- ・伏木地区能登半島地震復旧・復興連絡協議会
- ・伏木地区復興ロードマップ推進委員会 等

【高岡市復興会議】委員13名で構成

・学識経験者(大学教授)、行政(県)、経済、福祉、地域の各種団体の代表者・役員等

高岡市復興会議の設置について

令和6年1月1日、本市を襲った「令和6年能登半島地震」は、これまで本市が経験したことのない未曾有の激震をもたらし、道路や上下水道等の公共インフラ、そして市民生活の根幹を支える家屋に甚大な被害を与えました。

この地震被害に対し、これまで本市は、高岡市震災復興計画（令和6年3月策定）において「強い高岡」の構築をビジョンに掲げ、令和8年度までの復旧・復興ロードマップを示しながら、被災された方々が一日も早く日常を取り戻せるよう、被災者支援策や復旧事業に取り組んできました。しかし、公費解体が進み、更地が増える地域では、経済活動の停滞や地域コミュニティの維持が困難になるなど、今なお多くの課題が残されている状況にあります。

復興は、今後も長きにわたり、その歩みを着実に進めていかなければならない重要な取り組みです。被災された方々が、将来にわたり地域で安心して暮らし続け、未来への希望を描ける環境を築き上げていくために、被災者に寄り添い、対話を重ねながら、ともに未来を考えていく積み重ねが、今求められています。

市民の皆様、被災地で活動を行う関係団体の意見を踏まえて、総合的かつ専門的な見地から、実現可能で未来に向けた新たな復興計画を検討するため、「高岡市復興会議」を設置いたします。

<高岡市復興会議 委員名簿>

委員名	所属団体・役職等	備考
出町 譲	高岡市長	会長
上見 弘昭	高岡市社会福祉協議会常務理事・事務局長	
大西 宏治	富山大学人文学部 教授／防災士	
川上 孝裕	富山県土木部 次長	
米谷 和也	学校法人清光学園常務理事（高岡龍谷高校）	
坂 廣志	伏木校下自治会連絡協議会 会長	
塩谷 雄一	高岡市観光協会 会長	
高田 裕	ふしき防災士の会 代表	
高畑 直樹	伏木商店連盟 副会長／中道商盛会 会長	
立野 晴之	高岡市消防団 伏木方面団 伏木湊分団長	
蜂谷 俊雄	金沢工業大学建築学部 教授	
八坂 徳明	高岡法科大学法学部 教授	
吉川 奈美	伏木小学校育友会（PTA）会長	

（敬称略・委員は50音順）